

§ 5. あとがき

文 献

実用性を主眼として、第1表、第5図ならびに第7図を得たが、これらは今後の資料追加によって、検討補正されねばならぬことは当然である。

最後に、流量資料集収に関して、宮城県玉山防災施設工事事務所のご好意を受けた。こゝに記して感謝いたします。

- 1) 東北電力株式会社, 仙台管区気象台, 昭和35年9月; 夏期只見川上流水文気象調査総合報告, 第5章.
- 2) 同報告, pp. 47~49.
- 3) 藤田兼吉, 1959; 河川予報について, 気象研究ノート, 10. pp. 160~162.
- 4) 文献1)の報告, pp. 55~57.

気 象 界 消 息

1. 台風シンポジウムの開催を企画

WMOの執行委員会の決議、臨時台風対策委員会の報告(台風に関し国際協力態勢の必要性の強調)等を尊重し、気象庁および外務省では新年度の予算に台風国際セミナーの経費を要求している。開催するとすれば、主催者はWMO、招請国は日本、開催地は東京、期日は1962年1月下旬ごろとなる模様である。(気象庁ニュースより)

2. 北米に吹雪

合衆国北東部は今冬第3番の大吹雪に見舞われ、各地で2フィート(約50cm)の積雪があった。2月3日(金)夜からの雪でニューヨークには約50cmの降雪があった。また氷点下の気温が16日間続いたが、これは1880年以來のこととの由。さらにニュー・ジャージーでは1947-8年の降雪記録62.5(約159cm)インチを破り、63.5インチ(約161cm)の降雪量があった。交通はまひ状態となり混乱を起したが、アパートの6階の窓から雪堤の上に落ちた4才の子供は雪のお蔭でかすりきずですんだそうである。

3. 雪国各地でなだれ

西ヨーロッパでは2月4~6日は春のような暖かな日が続き、山岳地帯ではなだれが起り、フランスのアルプス村ではケーブルを切られ42人の人々が雪の中に閉じこめられた。また平野部、北フランスやベルギーでは洪水におそわれた。イタリアアルプスでも4日に8人がなだれで命を奪われた。日本でも2月9日北海道寿都郡樽岸の西4kmの山中で材木切り出し中の2人がなだれにさらわれた。

4. 箱根地方に雪

2月24日から25日にかけて、箱根山岳地方で、10~20cmの積雪があり、小田原から三島への国道ではブルドーザーが除雪に活動した。

例 会 の お 知 ら せ

3 月 の 例 会

日 時 昭和36年3月24日(金)13時30分~17時

場 所 研修所東京教場第3教室

主 題 天候のベースについてのシンポジウム

話題提供者

朝 倉 正(気象庁長期予報)

久保木 光 熙(//)

渡 辺 正 雄(気象庁長期予報)

田 辺 三 郎(気象庁予報)

大 塚 竜 蔵(//)

蔵 重 清(//)

司 会 者

毛 利 圭 太郎(気象庁予報)